

大津歴博 だより

P1~3	企画展 珠玉の大津絵
P4	ミニ企画展 戦時下の大津 ミニ企画展 居初家文書の世界
P5	学芸員のノートから 湖岸の石垣をたずねて
P6	収蔵品紹介

企 画 展

珠玉の大津絵

— 町田市博×大津歴博コレクション —

平成25 (2013) 年7月26日 (金) から9月1日 (日) まで



藤娘 町田市立博物館蔵



長刀弁慶 大津市歴史博物館蔵

大津市歴史博物館



珠 玉 の 大 津 絵

—町田市博×大津歴博コレクション—

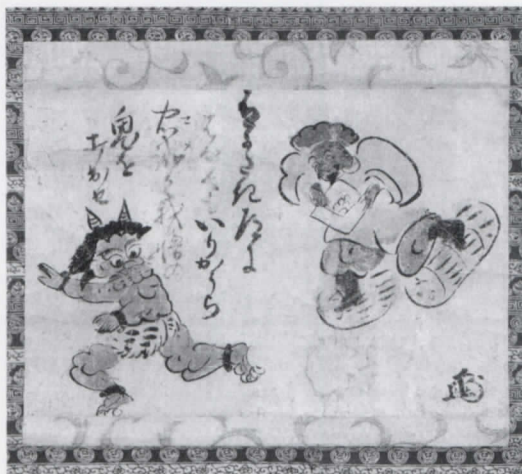
7月26日(金)～9月1日(日)

観覧料 一般：800円(640円)、高大生：400円(320円)、小中生：無料

()内は、前売り、15名様以上の団体、大津市内在住の65歳以上の方、大津市内在住の障害者の方の割引料金。

大津絵とは

大津と京都の境にあたる大津追分付近は現在、京都東インターと国道1号、西大津バイパスのジャンクションです。実は、そのエリアが大津市であることを御存じでしょうか(名神高速道路の計画当初も、日本道路公団により現在の京都東ICが「大津IC」として公表されていた)。江戸時代も、その場所は東海道(京街道)と伏見街道が合流するジャンクションであり、そこは旅人・駕籠かき・人足・馬



節分 町田市立博物館蔵



猫と鼠 大津市歴史博物館蔵

子たちでごったがえす土産物店街でした。そこで人気をさらっていた土産物、それが「大津絵」です。「絵」ではありますが、伊藤若冲や円山応挙らが手がけた立派な床掛けのファインアートではなく、むしろキャラクターグッズのようなものです。それは、旅路を急ぐ人々の足を、「おやっ」と思わせて立ち止まらせ、一目で心をつかみ、購入を決意させねばならぬ環境が生み出した、いわばキャラクター的造形の先駆け、それが「大津絵」なのです。

もっとも、初期の「大津絵」は、まじめに「仏画」を描いたものであり、庶民が信仰対象として求める土産物でした。また、「大津絵」のキャラクターは、単に「ゆるく」・「かわいい」だけではありません。江戸時代の庶民の気質を反映した風刺や滑稽、教訓が込められていて、それを知ると、「なるほどー!」と、ついうなずいて買ってしまおうような土産物です。

大津絵キャラクターが大集合する本展では、それらに込められたユニークな意味や特性(キャラクター)を紹介し、江戸時代、全国区の人気を誇った大津絵の魅力を堪能していただけます。

展覧会の特色

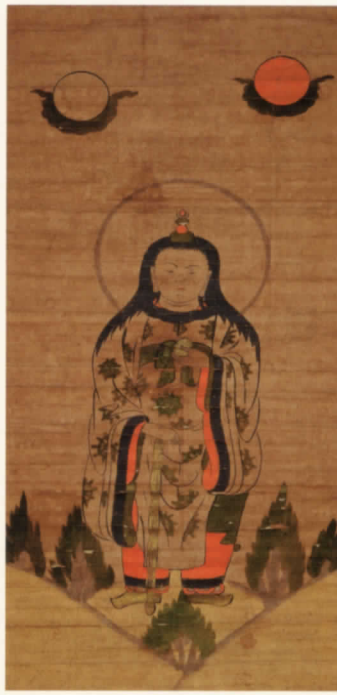
町田市立博物館は、公立博物館として、東日本で最も充実している大津絵コレクションを所蔵しています。しかし、まとまった形で、他館に貸し出されたことはなく、今回、コレクション交流展という形で、町田市立博物館所蔵大津絵コレクション全体を、初めて一括出品していただくこととなりました。本展では、本館収蔵品もあわせて一堂に展示し、珠玉の大津絵が100点あまり並ぶ展覧会となります。

【展示コーナー】

- 大津絵とは—大津絵の基礎知識
- 大津絵の店と大谷・追分界隈の賑わい
- 大津絵大図解 大津絵が生まれるまで ・大津絵の神仏—普及版神仏画の展開—
大津絵の鬼—鬼も人、人も鬼?— ・大津絵の美人画—美人こそ教訓の種—
福神のこっけいなパフォーマンス ・武神・武者—猛者への祈り—
若衆と男衆—二枚目から三枚目へ— ・大津絵動物園
- 江戸時代のメディアに見る大津絵



雷 公
町田市立博物館蔵



雨宝童子
大津市歴史博物館蔵



阿弥陀三尊来迎
町田市立博物館蔵



隼
町田市立博物館蔵



鬼の念仏
個人蔵・大津市歴史博物館寄託



竹に龍
町田市立博物館蔵

本展には、希少な初期の大津絵が大集合

阿弥陀三尊来迎：現存大津絵の中では最大サイズ。大津絵がコンパクトサイズになる以前の最古級作品。

雨宝童子：やはり最古級の大津絵のひとつ。線描にまだ本格的仏画の名残りを留める。

雷 公：大津絵の雷さんはコミカルが定番だが、この初期作の雷公は気性が荒そうだ。

竹に龍：現存確認はこの作品のみ。俱利伽羅龍が逆行するかのよう竹にからみつく不思議な画題。

鬼の念仏：三井家旧蔵とされる鬼の念仏。豪商も何か思うところがあったか。

隼：大津絵の鳥獣作品では、もっとも古い様式をみせる作品のひとつ。凜とした描写。

戦時下の大津 — 平和へのメッセージ —

会期：平成25年8月13日（火）～9月8日（日）まで

昭和20年（1945）8月、第2次世界大戦が終結してから、今年で68年が経過しました。戦争の惨禍を記憶される方々の高齢化が進み、戦争そのものの風化による危機感が叫ばれてからでも久しい年月が過ぎました。琵琶湖と緑の山々に囲まれた我が大津の地ですが、実は、戦時中に陸海軍のさまざまな施設があったのだということさえ、忘れがちになっているのではないのでしょうか。

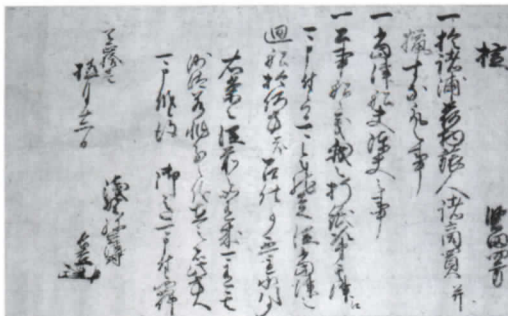
今回のミニ企画展では、まず、市内にあった陸軍歩兵第九連隊、陸軍少年飛行兵学校、大津海軍航空隊、滋賀海軍航空隊、天虎飛行訓練所、桜花特攻基地などの歴史を、残された遺品や当時の写真で紹介しします。また、戦時体制下での市民生活に関わるさまざまな資料も、合わせて展示。特に、物資が不足したなかで使用された衣料切符、戦争遂行のための資金調達を目的に発行された戦時国債、またかつて旧甚七町（現松本二丁目）にあった映画館・帝国館で上映された「爆弾（肉弾）三勇士」のチラシなどにより（写真右、本館蔵・畠山コレクション）、戦時下の市民生活を振り返ります。



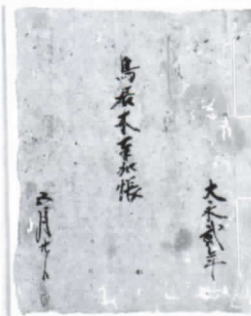
大津の古文書7 居初家文書の世界

会期：平成25年9月10日（火）～10月14日（月・祝）

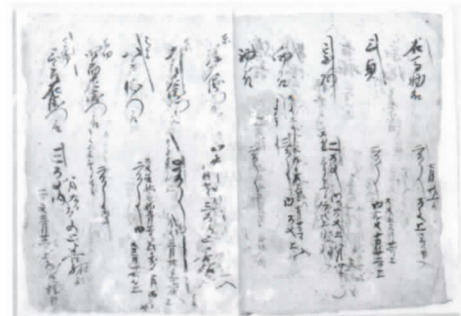
堅田船道郷士の居初家には、中世以来の古文書が多く伝来しています。これらの古文書は、堅田や居初家の歴史だけでなく、琵琶湖の水運・漁業など、近江の歴史を知るための重要な歴史資料です。今回のミニ企画展では、室町・戦国時代から江戸時代の古文書のうち、堅田の由緒や湖上特権、また宮座（祭祀組織）に関する文書を中心に紹介します。



浅野長吉掟書 天正11年（1583）12月12日



（表紙）



（本文）

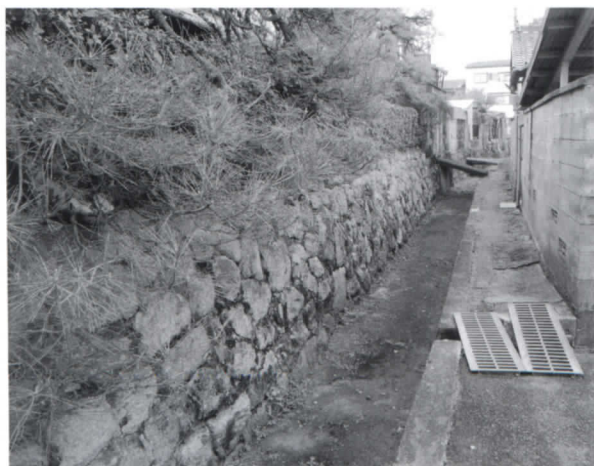
鳥居木幸加帳（宮座関係文書）大永2年（1522）5月20日

—現地見学会— 湖岸の石垣をたずねて 雑感

本年3月2日（土）から4月14日（日）まで開催した企画展「大津百町—マチからはじまるモノがたり—」では、関連講座として「かつての湖岸ラインを探る」と題した現地見学会を実施しました。かなりマニアックな内容だったにもかかわらず、定員50名のところ、150名を超える多くの方々からご応募をいただきました。

大津の湖岸は、戦前から戦後、特に昭和30年代から始まる高度経済成長期に順次埋め立てられ、風景は一変してしまいました。かつて琵琶湖の湖岸だった時の痕跡など、もうどこにも残っていないだろう、と考えてしまうのも無理はないのですが、丹念に歩いてみると、各所にその痕跡、つまり湖と陸地の間にあった石垣が残されているのに驚かされます。

さて見学会で探索したのは、尾花川・観音寺付近から浜大津、さらに松本・馬場を越えて膳所地区の西の庄・木下町あたりまで。かつての湖岸の石垣は、今も健在でした。尾花川・観音寺は、北国海道の旧道沿いに開けた町地ですが、その道路の湖岸側の町家のすぐ裏手には、長い距離に渡って石垣が残されています。旧道を歩いてみると、湖岸側の町家と町家の間に何本もの細い路地が残っています。たとえば湖北の海津などを歩くと、家と家の間から琵琶湖が見え、いかにも湖国を訪ねているという雰囲気はひたることができそうですが、かつての尾花川・観音寺あたりも、そのような風景だったのです。この湖岸に延びた細道は、馬場や西の庄あたりにも残されており、大津の人々が、琵琶湖を日常生活の場としていたことが分かります。石垣は、浜大津から石場あたりでは京阪電車の線路沿いに残っており、そこから膳所方面にかけては、現湖岸道路の少し内側に入れば容易？に見つけることができます。なかには、鉄板で蓋をしてある溝筋などにも残されています。当館に問い合わせただけければ、現地見学会当日に配布した地図がありますので、興味のある方は是非ご連絡ください。（本館館長 樋爪 修）



観音寺に残る湖岸の石垣



馬場児童公園（馬場一丁目）の路地

大津城主京極高次の古文書

京極高次判物（宛行状） 文禄4年（1595）9月16日付 折紙（個人蔵）

今回は、戦国時代、大津城最後の城主である京極高次が発給した古文書を紹介します。

この文書は、文禄4年9月16日に原田次郎左衛門尉へ宛てられたもので、松本にあった7石5斗3升5合分の土地を与える、という内容です。本文はわずか3行半しかありませんが、豊臣政権や京極高次の大津支配を考える上で大変重要な内容を含んでいます。

京極高次は、文禄4年に豊臣秀吉から6万石を加増され、それまで支配していた近江八幡から大津城主へ移ります。高次は、同年9月11日、それまでの大津城主と同様に、大津百艘船への特権を認める高札を、自身の花押（サイン）を据えて発給しています。ところが現在、大津城主として京極高次が発給した判物（花押を据えた文書のこと）は、大津百艘船高札と今回紹介した文書しか見つかりません。また、文書の内容にある「松本」は、翌文禄5年に大津町と並んで太閤検地が実施された松本新町を指すと考えられることから、この文書が京極高次による大津町とその周辺の開発・支配を示す数少ない史料といえます。今後、大津で新たな京極高次の発給文書が発見されれば、大津城籠城戦以前の大津町支配やその実態がより明らかになるかもしれません。大津での京極高次の発給文書の行方が気になりますね。（本館学芸員 高橋大樹）



【釈文】
以上
松本之内、新開
分七石五斗三升五合
為給恩令扶助
者也、
文禄四年
九月十六日 高次（花押）
原田次郎左衛門尉殿



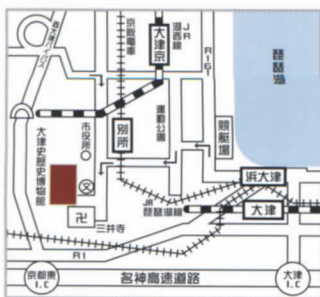
写真左 京極高次判物
写真中 京極高次判物花押部分
写真右 京極高次大津百艘船高札（個人蔵）花押部分

【解説のポイント】

- 折紙とは、料紙（文書を書く紙）を水平方向に折り、右から書いていく形をいいます。最初に「以上」とあるのは、本来冒頭部分に「尚々書」といって追伸を書くのですが、それが無いことを示しています。
- 花押は、その人の名前の一字を使うことが多いようですが、これは何の字を使っているのでしょうか。長方形にも見えますが、「次」をかたどったものにも見えませんか。

※本収蔵品と京極高次大津百艘船高札は、常設展示「大津百町」コーナーに展示してあります。

利用案内



交通機関

- ・京阪電鉄石坂線別所駅 徒歩5分
- ・JR 大津京駅 徒歩15分
- ・JR 大津駅、バス10分別所下車

■駐車場 約70台（無料）

常設展示観覧料

区分	個人	団体(15名以上)
一般	210円	160円
高校生・大学生	150円	120円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆大津市内在住の65歳以上の方、市内在住の障害者の方は無料。
- ◆土曜日に限り、小・中学生は無料。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

開館時間

午前9時～午後5時（展示室への入場は午後4時30分まで）

休館日

月曜日（祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館）
祝日の翌日（土・日曜日の場合は開館）
年末年始（12月27日～1月5日）
その他、業務の都合により休館する場合があります。

歴史カードのご案内

当館主催の展覧会を自由にご観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。（1年間有効）

料金	一般	高大学	小中学
	2,000円	1,500円	1,000円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番2号
TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>

大津歴博だより No.91 平成25年7月5日